時事新報

第千二百十一號　明治十九年三月一日　月曜日
舊丙戌正月廿六日　（庚申）

日出入　明　午前六時三十二分　午後六時三十四分
月出入　午前一時三十八分　午後二時二十一分
潮汐　（西暦一千八百八十六年）

社告

○時事新報賣約嚴續被成下候ニハ新報代價並ニ郵便税モ必ズ前金ヲ以テ御拂入被成下度候又前金相切レ候ヘハ其日限リ新報ノ送送相見合セ候

○新報代價並ニ郵便税トシテ御送附相成候金員當方ニテ正ニ落手仕候節其郵便税面ヲ以テ御通知ハ不申上其代リニ毎日御越送申上候新報ノ帶封表面御名前ノ脇ニ（何月何日）記入仕置候間御讀可被成下候是ハ此日迄ノ新報代價並ニ郵便税トモ御拂濟相成居ルニ付此日マデハ新報送送仕候ト申スモノニ候

○郵便書留又ハ銀行爲換等ヲ以テ時事新報代價御拂入レ被成下候節當方ノ名宛ハ（時事新報社）ト致シ郵便爲換ナレバ（東京麴町区本町）ニテ受取ベキ樣御取組被成下度候

○御住所ノ御都合ニテ郵便爲換又ハ銀行爲換等御取組被成下候節御不便ノ御方ニ限リ時事新報代價並ニ郵便税共一錢又ハ二錢ノ郵便切手ニテ御拂入レ被成下候ヲ者シカラズ候

○時事新報約賣廣告ハ新聞雜誌ノ諸君ニテ住所御移轉等ノタメ新報配達先キ御取替ヘ被成度節ハ新舊兩方ノ所書ヲ併テ御通知被成下度候

時事新報の見本御入用の御方は其旨東京日本橋區通三丁目十一番地時事新報社又は大坂東區高麗橋通五丁目卅四番地時事新報社出張所の内へ御申越被成下度左候へば代價並に遞送料と申受けす右見本御り送可申上候

時事新報

帝室の綏和力（前號の續）

文明は兼或論紛々として理の八釜しき世の中にて理論と以て理論を制せんとすれば互に相擅著しく徒に世の風波を激するを過ぎず即ち民情調理の爲め帝室の綏和力を此際に導て情の部分より國の融和を保つと甚だ肝要なる所以なり因て今其例を求めて之を日耳曼國に得たり抑も今の日耳曼皇帝ウヰルヘルム第一世陛下は高齢已に八十九歳よして夙に敬聖文武の聞ゆり人心收攬の一點に至ては帝れ最も銳意する所にして去る千八百七十年普佛戰爭の際佛軍と雀躍して巴里城を出でたれども帝の伯林城と發するや鞍に據て宮闕を回顧し國の興亡分け目れ一戰、八民の肝腦地に塗るゝを悲しを涕涙襟と惜えて遇ゝ去る能はざりしかば國民帝の赤心を察して欽仰せす〳〵切に聖年遠ゐ帝を推しく日耳曼皇帝の位に即かしむるに至りたり帝は居常民と慣色み親寡孤獨疾の爲めに御手許金と賜はると屢々あるが故ゐ其自から奉ずると極めて薄く宮室亦甚だ簡朴、一日帝威る儀行頭取の宴に赴き其器具裝飾品の美麗なるを見、時よ左右を顧て眹の身代にては迚も是程の壯觀と奢くすと能とずと語らたるとありと亦以て帝の平生を知るべきあり帝は皇子皇孫よ對して庭訓頗る嚴に毎日一度皇孫を召し諸宮省の組織、地方政治の模樣等ゐ就て質問と出して其答を聞くと常とす又或る陸軍大佐い皇孫が其命令に違ひたるを責め鞭を以て之を打擲しけるが皇孫い其由と祖父君なる帝に奏聞するや否、帝は大佐に出頭の命を下したり、大佐い命を聞て恐縮之を晉れ鞭と愛孫に加ふ、嚴罰目前逃るゝに處あるしとて恐るゝ〳〵御前よ進をければ帝は喜色面に溢れ汝は眞に國と皇人の士あり今より汝と少將に任じ尚幼孫への教調とも賴ひありと有り難き勅語を下しければ大佐は感泣して感命を拜し士は己れを知るものゝ爲めに死す、吾れ今日よ至て死所と知れりとて退く之を人に語りさりといふ帝い其職務と視ると極めて重く數十年一日の如く未ざ曾て事と以て之を廢せず一所年前の事ゝり觀兵式の擧あり此時帝不豫にして宮中に引き籠り侍醫も頻りに臨式の不可を陳ずれども帝遂に之と聽かず一年一回の觀兵式、朕之れに臨む能はざれば此位を保つことを得ずとて例の通り臨式あり式場中偶ま騎兵の落馬せしものありしに帝之御馬より飛び下りて親に之と介抱されたれば滿場の感嘆實時已まず鬼を欺く荒くれ武者も脱くゝ感涙に沈むたりと云ふ又帝の政務を視るや嚴密鄭重、些の粗略なく前年我國人某氏が公用を以て伯林府よ赴き府中の驛遞局に至りさるに總官の卓上ゑ其上申書あり紙尾に朱筆にて三百マークと記ゑ之と消して三百五十マークと書き直し更ゐ之を塗抹して最後に四百マークと記し斯てウヰルヘルムゐりたり即ち此上申書い驛遞總官が驛遞局官吏の恩給を三百マークに定む可きとの奏議に係り帝は熟考の上三百マークよては不足なり三百五十マークよ決せんとして尚再考の後更に五十マークを加へ都合四百マークよ裁決されさるものなりと今帝の皇后アウガスタも亦敏達の明ゆり數年前の事とか伯林府の我公使館に雇はれたる日耳曼の下婢、誤て窓外に顛墜したるとあり此時傍に人を見ざれば時の日本公使は手と取て之と扶け當座の治療を加へたるに聖朝よ至りて一封れ書翰到來せり披て之れと見れば皇后の親書ゑて昨日我國民が偶然の怪我ゆり之折、親切れ介抱、厚意謝するに堪たりとの文意なりきかば我公使も偏に皇后の聰敏あるに感じたりと又或る片田舎にて父老相會して一寺院を創立せんと出金經營の其際に紳士風の一人徐に入り來り寺院創立は奇特の事ゆり尚幾何金と醵集すれば十分ゆりやと謂ひて了り扨て其金と寄附しさる處にて斯く申す余は皇太子フレデリッキウヰルヘルムゐりと名と告げて立去りたれば父老の喜、言語に絶し只管其恩德と感佩するばかりなりきと右等は二三の例よして其他日耳曼皇帝皇后と始め皇族方の中にて情を以て人心と收攬の擧動枚擧よ遑ゆゝず左れ之にやゆ日耳曼國民が皇室と愛するれ必は表裏に徹底しく動かす可らず彼の共和主義社會主義等は政論よ熱心なるものよても皇族の美擧嘉行と耳ゐする時と自ゆら其懷よ感激する所なき能はず即ち目下日耳曼にて右等政論は鎮を緩和去以て今日の平穏と保つと得るはビスマルク公の政治に熟達して武名兒啼と止むるが爲めのみゐ非ず帝室の綏和力其効尤も偉ゐりと云はざるを得ず我輩ゐ前途幾年の事と豫想して日本は社會上にも此綏和力の靈用と大よすること經世家の今日に熟慮す可きゐとなゐんと信ぜるなり（畢）

官報

○勅令

朕各省ノ官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治十九年二月二十六日

勅令第二號

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

各省官制通則

第一條　此命令中各省トアルハ外務省内務省大藏省陸軍省海軍省司法省文部省農商務省遞信省ヲ合稱ス

第二條　各省大臣ハ其主任ノ事務及今後法律勅令ニ依リ主任ニ屬スル事務ニ付其責ニ任スシ　主任ノ事務再省以上ニ關渉スルトキハ關渉ノ各省大臣ノ間ニ協議ヲ經テ其主任ヲ定メ上奏スヘシ若シ各省大臣ノ間協議決定セサルトキハ之ヲ閣議ニ提出スヘシ○第三條　各省大臣事故アルトキハ臨時命ヲ承テ他ノ大臣其事務ヲ代理スルコトアルヘシ○第四條　凡ソ法律勅令ノ各省大臣主任ノ事務ニ屬スルモノハ各省大臣内閣總理大臣ト均シク之ニ副署ス若シ兩省以上ニ關渉スルモノアルトキハ内閣總理大臣及關渉ノ各省大臣均シク之ニ連署スヘシ○第五條　各省大臣ハ其主任ノ事務ニ付法律勅令ノ制定廢止及改正ヲ要スルコトアルトキハ案ヲ具ヘ閣議ニ提出スルコトヲ得○第六條　各省大臣ハ其主任ノ事務ニ付其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律勅令ノ範圍内ニ於テ法律勅令ヲ施行シ又ハ安寧秩序ヲ保持スル爲ニ省令ヲ發スルコトヲ得○第七條　各省大臣ノ命令ニハ罰金二十五圓以下又ハ禁錮二十五日以内ノ罰則ヲ附スルコトヲ得○第八條　各省大臣ハ法律勅令ノ範圍内ニ於テ其省中各局課及其所轄官廳ノ處務細則ヲ定ムルコトヲ得○第九條　法律勅令ニ副署シ省務ヲ奏シ内閣ノ議ニ列シ及省令ヲ發スルコトヲ除クノ外各省大臣ハ其職務ヲ次官ニ代理セシメ又ハ其職務ノ一部ヲ次官ニ委任スルコトヲ得○第十條　各省大臣ハ其主任ノ事務ニ付警視總監北海道廳長官府知事縣令ヲ指令又ハ訓令ヲ下スコトヲ得○第十一條　各省大臣ハ其主任ノ事務ニ付警視總監北海道廳長官府知事縣令ヲ監督スヘシ若シ警視總監北海道廳長官府知事縣令ノ處分又ハ指令ノ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其處分指令ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得○第十二條　各省大臣ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官以上ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以下ハ之ヲ專行スヘシ○第十三條　各省大臣ハ内閣總理大臣ヲ經テ所部官吏ノ敍位敍勳及恩給ヲ上奏スヘシ○第十四條　各省大臣ハ閣議ノ發裁可ヲ經ルニ非サレハ局課ヲ廢置分合シ又ハ定限ノ外新ニ勅奏任官ヲ增加スルコトヲ得ス○第十五條　各省大臣ハ豫算決定後臨時ニ增額又ハ別途支出ヲ請求スルコトヲ得ス但臨時ノ事變及他ノ成規ニ依リ止ムヲ得サルモノハ此限ニアラス○第十六條　各省大臣ハ俸給豫算額内ニ於テ其省限リ定員ヲ設ケ判任官ヲ任用スルコトヲ得○第十七條　各省大臣ハ臨時ノ須要ニ判任官定員ノ外ニ俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得○第十八條　各省大臣ハ其主任ノ事務ニ付時々ノ狀況ヲ内閣總理大臣ニ報告スヘシ○第十九條　各省大臣ハ每會計年度末ニ於テ前年ノ功程ヲ具ヘ内閣總理大臣ヲ經テ報告書ヲ上奏スヘシ○第二十條　各省大臣ハ每會計年度末ニ於ス判任官以下使用ノ狀況ヲ具ヘ臨時事務ノ爲ニ使用シタル雇員ノ日數人員及金額ヲ細分統計シ内閣總理大臣ニ報告スヘシ○第二十一條　各省大臣ハ一周年末ニ其省ノ豫算定額内ニ於テ奏任官以下特別ノ勤勞アル者ヲ賞與シ之ヲ官報ニ公錄スルコトヲ得○第二十二條　各省大臣ハ所部ノ官吏ヲシテ他省ニ渉リ又ハ他省ヨリ兼官セシムルコトヲ得ス若シ止ムヲ得サル要用アルトキハ之ヲ閣議ニ提出シテ裁可ヲ請フヘシ○第二十三條　各省大臣ハ臨時審査ノ爲メ省中定員ノ内ヲ以テ便宜委員ヲ設クルコトヲ得○第二十四條　各省大臣ハ法律勅令ノ定ムル所ニ從ヒ部下ノ官吏ヲ懲戒ス○第二十五條　各省職員ヲ置ク左ノ如シ

次官　秘書官　書記官　局長　參事官　局次長　試補　屬

第二十六條　前條ノ外各省特別ノ職員ヲ置クモノハ各省ノ部ニ就テ之ヲ定ム○第二十七條　各省次官一人ヲ置ク勅任トス○第二十八條　次官ハ主任大臣ノ命ヲ承ケ第九條ノ範圍内ニ於テ大臣ノ職務ヲ代理シ又ハ大臣ノ指令シタル範圍内ニ於テ委任ヲ受ク　次官事故アルトキハ大臣其省中ノ官吏ヲシテ臨時其職務ヲ代理セシムルコトヲ得○第二十九條　次官ハ大臣ノ代理トシテ公文ニ署名スルコトヲ得○第三十條　次官ハ總務局長トナリ命ヲ大臣ニ承ケ各局課ノ事務ヲ監督シ省務ノ全般ヲ整理スルノ責ニ任ス○第三十一條　各省ニハ大臣官房ヲ置ク大臣官房ハ機密文書ヲ掌リ大臣次官ノ官印及省印ヲ管守ス○第三十二條　各省ニハ機密事務所部ニ屬スル一切ノ事務ヲ掌リ各省ノ專屬シタル事務ニ付テハ官房ノ部ニ就テ之ヲ定ム○第三十三條　各省ニハ書記官及各局課ノ書記官ヲ置ク書記官ハ便宜ニ依リ特ニ其